



PISA

IN FOCUS

31

education policy education policy education policy education policy education policy education policy education policy

学業のオールラウンダーはだれか。

- OECD加盟国全体の平均で、生徒のおよそ4%は読解力、数学的リテラシー及び科学的リテラシーで成績優秀者である(オールラウンダー)。
- オーストラリア、フィンランド、香港、日本、ニュージーランド、上海及びシンガポールでは、他のどこの国や地域よりもこうした生徒たちの割合が大きい。

高まりつつある高度熟練労働者に対する需要への対応は早くから始まる。

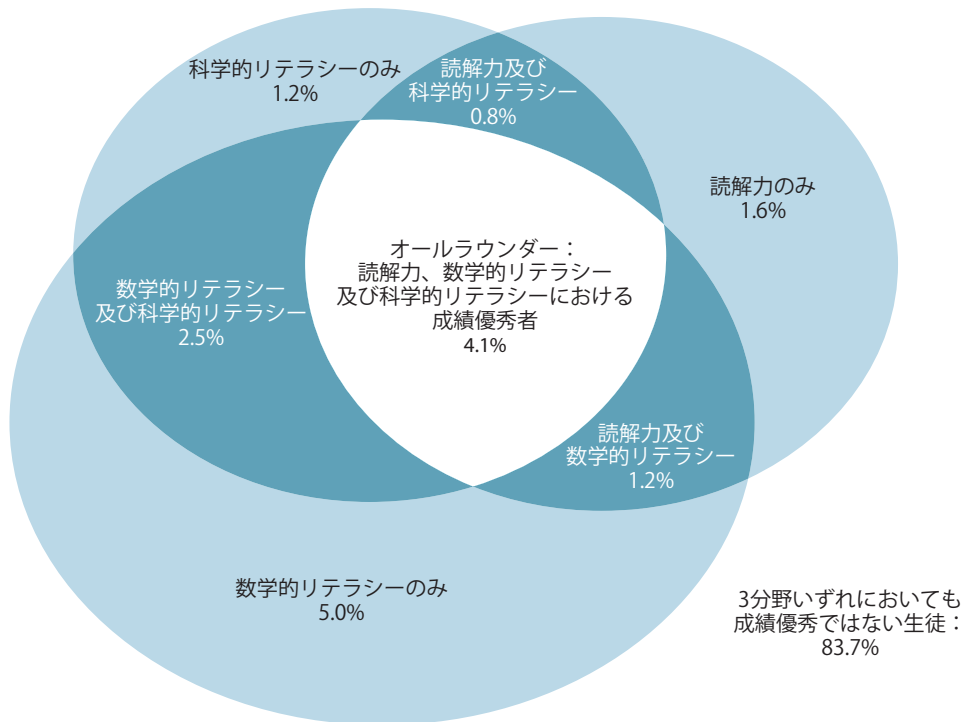
高度熟練労働者に対する需要の急速な高まりが、世界的な人材獲得競争をもたらしている。高度なスキルは、新たな知識や技術を創出し、技術革新の火付け役となるために不可欠であり、それゆえに経済成長や社会の発展の鍵となる。PISA調査で評価される全分野(読解力、数学的リテラシー及び科学的リテラシー)において優秀な生徒たちを注視することによって、各国は自国の将来の人材プールの深さを見積もることができる。これがPISA調査における学業のオールラウンダー、すなわち、3分野ともPISA調査で最も高い習熟度のレベルである5又は6に到達する生徒たちである。



PISA

IN FOCUS

全ての分野で優秀な生徒はまれである



出典：OECD (2010), PISA 2009 Results: What Students Know and Can Do: Student Performance in Reading, Mathematics and Science, Volume I, PISA, OECD Publishing, Table I.3.7.

OECD加盟国の平均で、生徒たちの16.3%は科学的リテラシー、数学的リテラシー、読解力のうち、少なくとも1分野で優秀な成績を収めている。しかし、ある生徒が1分野で優秀な成績を収めているからといって、必ずしもその生徒がすべての分野に優れていることにはならない。例えば、スイスでは、数学的リテラシーで成績優秀者の割合が最も高い(24.1%)が、読解力(8.1%)と科学的リテラシー(10.7%)の成績優秀者は平均的割合にすぎない。同じことが東南アジアの多くの国や地域に当てはまり、特に、香港、韓国、マカオ、上海、シンガポール及び台湾においてそれが顕著で、数学的リテラシーに成績優秀者が見られる確率は、読解力又は科学的リテラシーに成績優秀者が見られる確率よりもかなり高い。

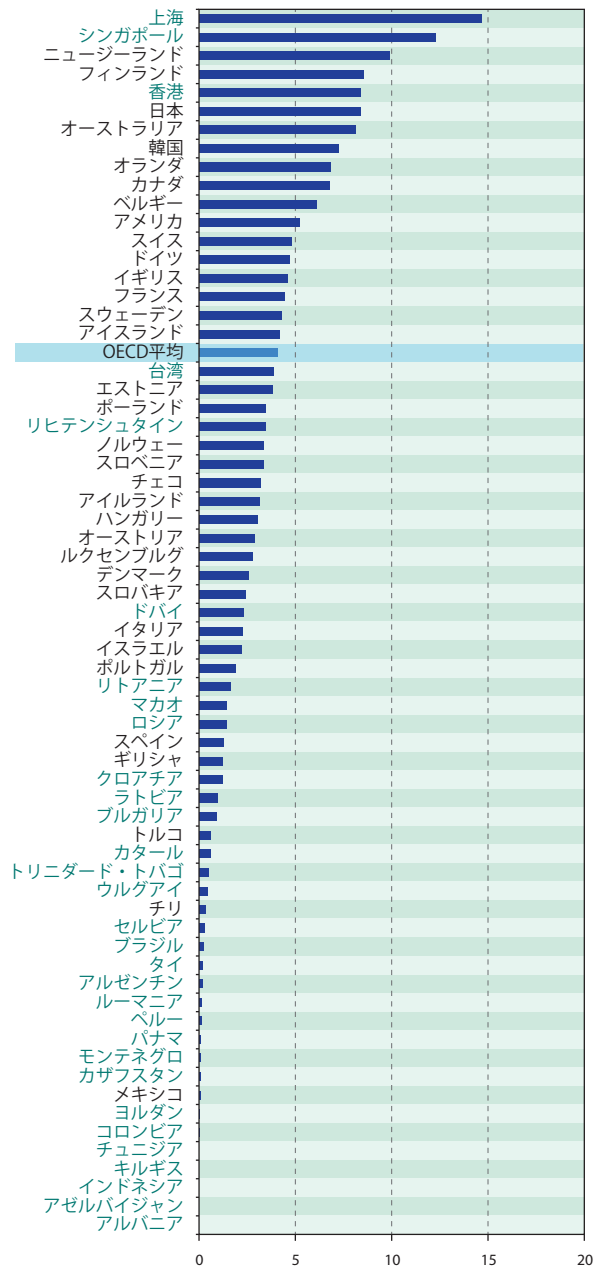


他の国々よりもオールラウンダーを生み出すことに成功している国々がある。

オールラウンダーがまれな理由は以下のとおりである。15歳の生徒のうち、評価対象の3分野すべてにおいて優秀な成績を収めるのは4.1%にすぎない。OECD加盟国の平均で、女子のオールラウンダーの割合(4.4%)は男子(3.8%)とほぼ同じである。

オールラウンダーは多くの国や地域に見られるものの、こうした生徒たちの割合は学校システムによってかなり異なる。オーストラリア、フィンランド、香港、日本及びニュージーランドでは、15歳の生徒のうち8%~10%がオールラウンダーである。この割合は、上海(14.6%)とシンガポール(12.3%)で更に高くなっている。これに対し、チリ、メキシコ、トルコ及びその他21の国や地域では、オールラウンダーは1%に満たない。

読解力、数学的リテラシー及び科学的リテラシーに優れた生徒はどこにいるのか



読解力、数学的リテラシー及び科学的リテラシーにおいてPISA調査で習熟度レベル5~6を獲得した生徒の割合

読解力、数学的リテラシー及び科学的リテラシーの成績優秀者の割合が高い順に国を並べている。国名が黒色表記のものは、OECD加盟国。

注：アルバニア、アゼルバイジャン、インドネシア、キルギスそしてチュニジアの推定値はゼロに等しい。

出典：OECD (2010), PISA 2009 Results: What Students Know and Can Do: Student Performance in Reading, Mathematics and Science, Volume I, PISA, OECD Publishing, Table I.3.7.



PISA

IN FOCUS

PISA調査において同様の平均得点の国々の中で、学業のオールラウンダーの割合には著しい違いがある。例えば、韓国とシンガポールの数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーにおける平均水準は比較的似通っている。しかし、シンガポールでは生徒の12%がオールラウンダーであるのに対し、韓国で3分野全部で優秀な成績を収めているのは生徒の7%である。同様に、エストニア、フランス、スウェーデン及びアメリカでは生徒たちの約5%がオールラウンダーであるが、フランス、スウェーデン及びアメリカの平均成績はエストニアより低い。

成績優秀者とは、数学的リテラシー、読解力又は科学的リテラシーのPISA調査において5又は6の習熟度レベルの成績を収める生徒たちである。これは、読解力で626点以上、数学的リテラシーで607点以上、又は科学的リテラシーで633点以上を取ることを意味する。

オールラウンダーとは、数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーすべてのPISA調査において5又は6の習熟度レベルの成績を収める生徒たちである。これは、読解力で626点以上、数学的リテラシーで607点以上、かつ科学的リテラシーで633点以上を取ることを意味する。

結論：知識を基盤とする21世紀の経済における高度なスキルに対する需要を満たすため、学校システムでは成績優秀な生徒の割合を高める必要がある。PISA調査の結果が示す通り、同様の平均成績を収める国々が同じようにオールラウンダーを生み出すことができるとは限らない。

本稿に関するお問合せ先

担当：Guillermo Montt (Guillermo.MONTT@oecd.org)

出典：OECD (2012), *PISA 2009 Results: What Students Know and Can Do: Student Performance in Reading, Mathematics and Science, Volume I*, PISA, OECD Publishing.

参考サイト

www.pisa.oecd.org

www.oecd.org/pisa/infocus

次回テーマ：

「教室に秩序のある学校では生徒たちの成績がよくなるか」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。